

# 体験版 補助資料

**Supplementary Material** 

(1.4)

# お忙しい中で体験していただきますので、貴重な時間を無駄にすることなく、 効率よく体験していただくために本紙をお役立てください。

本資料の説明順に利用マニュアルを読み進めてくださると、イーファスでさらに成果が上げられること を確信していただけると思います。

利用マニュアルは、イーファスにログインしていただき、メイン画面の下の [サポート] ボタンを クリックすると、サポート画面が開きますので、画面左上のリンクから閲覧していただけます。

### 〈補助資料と利用マニュアルの使い方〉

- ・補助資料は印刷して、順番に読み進めてください。
- ・利用マニュアルは長文になりますので、インターネットがつながっているパソコン上で閲覧して ください。
- ・利用マニュアルで紹介している操作フローチャートは、印刷していただいて、参照しながら操作 されると体験しやすくなります。

### 〈体験を始める前に〉

イーファスの施術は通常 iPad を使用し、患者様登録やセルフケア配信設定などはパソコンを使用して 操作します。iPad をお持ちでしたら、施術を体験される際は iPad でイーファスにログインして操作し てください。iPad をお持ちでない場合は、可能ならば持ち運べるノートパソコンで体験されることを お勧めいたします。



〈発行している ID について〉

ログイン ID として発行させていただく ID の利用可能な機能は次の表のとおりです。 追加施術 ID は、複数の端末で同時に施術する時に追加して使用する ID です。

各 ID で利用可能な機能について 利用プラン W 版								
メイン画面	所属院 管理	情報 管理	症状 管理	動作 検査	患者様 管理	カウンセ リング	セルフケ ア管理	モバイル 管理
代表 ID	0	0	0	0	0	0	0	$\bigtriangleup$
受付 ID	_	_	_	_	0	0	0	$\bigtriangleup$
追加施術 ID	-	-	0	0	0	0	0	$\bigtriangleup$

### 〈ログイン〉

メールに添付させていただいた「ログインマニュアル」を参照して、体験する端末からイーファスに ログインしてください。

#### ■ iPad をお持ちではなく、パソコンでイーファスを体験される場合は、

**パソコンに代表 ID** でログインしてください。

#### ■ iPad をお持ちの場合

iPad に代表 ID でログインし、パソコンに受付 ID でログインしていただくと施術操作と資料の閲覧 がしやすくなります。

今回、お忙しい中での体験だと思いますので、出来る限り効率よく体験していただきたいと考え、 患者様に提案しやすい「お勧めのイーファス施術」を、しっかりと体験していただけるように説明させ ていただいております。

体験版マニュアルの目次は、イーファスの全容を理解していただきたいので、導入していただいた後に 使用していただく正規の利用マニュアルと同じ項目になっています。

補助資料で説明している項目は、体験マニュアルの目次に<mark>黄色のマーカー</mark>をかけておきますので、 時間のある時に、黄色マーカーが掛かっていない項目もご覧になってください。 中には、概要説明だけの項目もございますが、そうした項目は導入後に詳しくご覧いただきます。



なお、**姿勢分析機能の比較操作**ついては、予めイーファスに保存している**サンプル画像を使って、** 体験していただきます。 ※可能ならば iPad で体験してください。

before After 画像は、合成比較機能を使用して評価するのですが、合成比較の利点を活かしていただくためには、専用の立ち位置マットや三脚を使用して、常に同じ条件で撮影することが必須条件になります。ですので、体験版ご利用時はサンプル画像を使った体験をしてください。

正式に導入された際は、iPad で撮影するための三脚やマットをご用意しますので、それらを使って撮影 していただきます。

\_\_\_\_\_

ー連の操作を理解されましたら、ぜひ患者様に導入初期にお勧めの使い方で施術されてください。 普段の施術を受けられた後に、イーファス施術をプラスして、患者様の受けられた感想等を伺っていた だければ、費用対効果の判断材料になると思います。

では次の3つの大まかな流れを14項目で説明させていただきますので、順番に読み進めてください。

1. イーファスの活用法について

- $\downarrow$
- 2. 施術体験
- Ţ
- 3. 他機能の紹介

確認	内容
	1. イーファスの活用法について
1	体験マニュアル【2】-(1)「イーファスの活用方法」の ①~⑤ をご覧ください。
	①は特徴で、②~④はイーファス施術の概要説明をしています。特に⑤「導入初期にお勧め のイーファス施術」は、是非患者様に施療してあげて、感想を伺ってほしいと思います。
	普段の施術後に、動きにくさが残存している方に提案されることをお勧めいたします。 提案の際には、後述する「小指チェック」をしていただくと、体の連動の不思議を体感され



	るので、スムーズにプラスαの施術を受け入れていただけます。	
	施術途中には、ぜひ忘れずに、視覚化した施術画面を見せてください。	
	従来との違いを理解して、価値を感じてもらうポイントです。	
	そして、プラス施術直後は、必ず動きの改善を体感してもらってください。	
	実際に患者様に受けていただくと、プラスαとして活用することが、導入初期においては 実用的で、早期に成果を出しやすいことを納得していただけると思います。	
	さてイーファスを検討していただく前に、「高い技術ほど成功しているとは限らない」という ことを先生と共有しておきたいと思います。 大事な点は、「患者様に違いが伝わり、価値を感じていただける」からこそ、課金しても継続	
	して受けていただけるという点です。	
	イーファスの体験が終わるときに、	
	「提案しやすそうだな」、「他との違いが分かりやすいな」	
	「施術を視覚化するので価値が伝わりやすいな」と感じていただけたなら、	
	間違いなくイーファスを導入していただければ、成果は上げられます。	
	なお途中ご質問がございましたらお気軽に事務局までご連絡ください。	
2	体験マニュアル【 <b>3】-(3)-6:「姿勢分析機能の活用目的」の①.②.③</b> をご覧ください。 姿勢分析機能の使い方などを説明しています。	
	お読みいただきましたら、体験マニュアル【2】-(1)-⑥.「姿勢分析機能の操作練習」の <b>練習用の操作フローチャート</b> を印刷し、サンプル画像を使って姿勢分析機能の画像比較を 体験してください。	
	一般的な数値化して比較する Before After は、頭で理解してもらいますが、 イーファスの合成比較機能は、透過スライダーを動してリアルな変化を見てもらうので、 視覚を通して直感で理解してもらいます。	
	施術効果を見ていただくことは勿論ですが、	
	施術をせずに放置した未来と、健康管理をしていった未来をイメージしてもらうのです。	



	導入されたときには、撮影条件を同じにしていただけるように、専用の立ち位置マットと 三脚を準備させていただきますので、体験はサンプル画像の操作で我慢してください。
3	体験マニュアル【2】-(2)「イーファスの提案方法」と【2】-(2)-②.「提案や説明の直前に行 う連動チェック」をご覧ください。
	先ほど患者様に提案するときの方法として、連動チェック( <b>小指チェック</b> )のことに触れて いましたが、 <b>患者様自身に体の連動を簡単に感じていただく方法</b> です。 参照して実際にどなたかに試してみてください。
	※小指チェック以外のチェック方法も色々とありますので、導入していただいた時には 詳しくご説明させていただきます。
4	体験マニュアル【2】-(2)-③.「イーファス導入時の既存患者様への提案方法」をご覧くださ い。「お勧めのイーファス施術」と併せて、導入された治療院様が、既存患者様に運用開始さ れる時に、よく実施される方法を紹介しています。
	施術体験
5	ではいよいよ施術体験について説明させていただきます。 イーファス施術の流れを簡単に説明すると、まず <b>動作検査</b> を行って、 <b>施術目的を選択、 骨盤検査</b> を行うという流れで <b>施術画面(対象筋表示画面)を選出</b> します。 まずどのように施術対象筋肉や関節の方向を特定しているのかを知っていただく方が、 効果を高めていただきやすいので、【3】-(3)-1:「イーファス施術の概要と施術画面の選出」 の ①~③ をご覧ください。
6	次に <b>動作検査</b> ですが、普段「運動機能検査」と「関節運動検査(名称選択式)」のいずれかの 検査を行います。 【3】-(3)-2:-①.「運動機能検査」と【3】-(3)-2:-②.「関節運動検査」を読んでください。



②関節運動検査の痛みの種類に関する内容は、もしかしすると、迷われる箇所かと思いますが、何度か読み返すと理解していただけると思います。もし解りづらければ、遠慮なくサポート事務局までご連絡ください。

そして、【3】-(3)-2:-⑤.「動作検査を実施するときのポイント」も必ず先に読んでください。 初めて検査を受けられる患者様は、どうしても<u>ぎこちなく動かれます</u>し、また動作検査の 目的や意味を理解されていないほど、<u>中途半端な動きになりがち</u>です。 なので、患者様が正しく行ってもらえるように、先生が動作検査のポイントを良く読んでお いてください。

※動作検査のフローチャートもご用意していますので、印刷された上で、参照しながら操作 されることをお勧めします。

【3】-(1)-②.「フローチャート 一覧表」から閲覧・印刷していただけます。

・運動機能検査のチャートは(26)、 ・関節運動検査のチャートは(27)です。

7 次に、【**3】-(3)-3:「施術目的の選択」**をご覧ください。

8

 $\square$ 

動作検査の次の工程として施術目的を選択します。この工程は、症状やお体の状態に応じた 最適な選出ロジックを働かすために行います。

施術目的によって選出結果が異なるので重要な工程です。初めのうちは迷われるかもしれませんが、迷われたときは【3】-(3)-3:-③.〈迷われる時のアドバイス〉を参照してください。

【3】-(3)-4:「骨盤検査」の ①~④ をご覧ください。

最後に骨盤検査を行います。これは選択した施術目的が適切かどうかを、予め患者様の体で 確認する検査です。アレルギー検査で行うパッチテストのような検査です。 骨盤検査の画面には、骨盤へのアプローチ方向を示した2つの図が表示されるので、簡易的に アプローチして、どちらが「**動きやすくなるか**」「楽であるか」を評価します。 決して可動域の大きさを見ているのではありません。詳しくはマニュアルを参照ください。 骨盤検査によって、運動面ごとに適切な選出ロジックを働かせることができるので、施術画面 の精度をより高めることができるのです。

検査の肢位は、患者様をベッドに腰かけていただいた状態(座位)で行います。 検査の際に経験や微妙な手加減が不要なので、アクチベータをお持ちでしたら、 ぜひアクチベータで検査してください。お持ちでなければ、②.「骨盤検査を行う手法」に



	2つの動画を用意していますので、ご覧になり徒手の行い方として参考にしてください。
	※フローチャート(28)をご用意していますので参照してください。
9	【3】-(1)-①「フローチャートの使い方」をご覧ください。 フローチャートの使い方ページをご覧いただくと施術の流れをよく理解していただけると思 います。操作に慣れるまでは、フローチャートを組み合わせて参照しながら操作していただ くと、スムーズに体験していただけます。
	ではいよいよ施術体験開始です。操作の流れはチャートで分かると思いますが、 ここでも簡単に説明をさせていただきます。
	<ul> <li>事前にチャートを印刷しておかれるのでしたら、【3】-(1)-②.「フローチャート 一覧表」から印刷されてください。</li> <li>・チャート(1):【初検用】検査フローチャート(姿勢分析なし)※再来用は(3)です。</li> <li>↓チャート(18):患者 ID 入力画面の患者登録や検索方法 ※患者マスタの説明は(19)</li> <li>↓チャート(26):検査フローチャート(運動機能検査)一般症状</li> <li>↓チャート(27):検査フローチャート(関節運動検査 名称選択式)一般症状</li> <li>・チャート(28):検査フローチャート(骨盤検査)</li> </ul>
10	<ul> <li>▶</li> <li>施術内容は、毎回来院情報(施術情報)として記録していきますので、</li> <li>• イーファスのメイン画面の「症状管理」ボタンを押して始めます。</li> <li>↓</li> </ul>
	<ul> <li>初めて受けていただく患者様の患者登録を行います。</li> <li>登録作業は、予め受付のパソコンから患者マスタ画面を開いて登録しますが、</li> <li>チャートでは、症状管理画面の中で、患者様登録をする流れで説明しています。</li> <li>※患者様登録の方法は、【3】-(2)-1:「患者登録と検索方法」のフローチャート(18)「患者 ID</li> <li>入力画面の患者登録や検索方法」参照。※患者マスタ画面での登録は(19)参照です。</li> </ul>
	なお、登録する ID 番号は、普段患者様に割り当てておられる番号をご登録ください。 ※とりあえず番号・氏名・フリガナだけで構いません。 



体験版で登録した患者様情報や施術情報は、体験版が終了した後、 **導入していただける時**は、導入後の正規環境(先生のデータベース)に移行しますし、 **導入されない時**は、弊社が責任を持って破棄しますので、安心して登録してください。 「チャート: ①【初検用】検査フローチャート(姿勢分析なし)」を参照して施術画面を 表示させるまでの操作を行ってください。※再来用チャートは(3)を参照します。 途中動作検査の画面では、以下のいずれかのチャートを使用します。 「チャート:(26).検査フローチャート(運動機能検査)| 「チャート:(27).検査フローチャート(関節運動検査 名称選択式)| ※動作検査方法の選択ですが、被験者様に動作痛が明確な場合は、関節運動検査でも良いで すし、それほど明確でない場合は、とりあえず運動機能検査を選択して進められたら 良いと思います。 少し補足させていただくと、運動機能検査は、体の中心から行う全身のバランス検査です。 根本的に症状に影響している全身性の問題を探す検査なので、症状の部位に関わらずに基本 として行う検査法です。例えば、足首の捻挫や肘の痛みの場合、動作痛が明確な時は関節運 動検査を行うことがありますが、動作痛が明確でない場合は運動機能検査を行います。 また経過不良で慢性化している場合などがそうですが、局所の問題よりも隠れた全身性の 問題が起因していることがあって、そうした時は、運動機能検査で選出される意外な部位へ の施術で好転することがよくあります。 1次検査が終わり、対象筋表示画面が表示されたら、施術目的を選択します ※施術目的の選択に関する説明箇所は、【3】-(3)-3:-③.「症状による施術目的の選択基準」を 参照ください。 迷われたら、「局所安定+安定」を選択ください。 次はようやく最終検査である骨盤検査です。 チャートは(28).検査フローチャート(骨盤検査)」を参照ください。 ※詳細説明箇所は【3】-(3)-4:「骨盤検査」です。動画も参考にしてください。 Ţ



完了すると、最終的に選出された対象筋表示画面(施術画面)に切替ります。

□対象筋表示画面の見方やボタン機能は、	(3) -(3)-5:	「対象筋表示画面の見方と選出ロジッ
クの調整機能 の ①~⑧ を参照してく	ださい。	

施術操作は【3】-(4)【施術操作】のチャートを使用します。

患者様へ実施される時ですが、普段の施術をした後で、動きにくさが残存しているときほ ど、施術していただいた時に、直後の効果が分かりやすく、患者様自身も効果を体感されま す。なお、患者様は症状に関係なさそうな検査だと感じられれば、曖昧な検査になるので、 **施術される前は、必ず小指チェック**をして、体の動きの検査が重要なことを説明してから 始めてください。

患者様には、普段の「施術効果を安定させるプラスαの施術」としてご提案ください。

以下の施術方法を是非体験してください。

11 〈導入時にお勧めのイーファス施術と使用するチャート〉

 $\square$ 

施術内容	使用チャート
(1)テープ施術(アスリート / 対象筋へのテープ)	チャート(10)
(2)距骨テープ(骨格調整テープ)	チャート(7)の後半
(3) 骨格調整	チャート(7)
(4) ストレッチ	チャート(11)

※特に(1)(2)がお勧めです。

※上記、お勧め施術の説明は、【2】-(1)-⑤.を参照ください。

| ※各施術方法の詳細は、【3】-(4)-2: ~ 6: で説明しています。

※チャートを印刷される時は、【3】-(1)-②.「フローチャート 一覧表」から印刷して ください。

施術が終わったら、セルフケア資料配信機能も体験してください。

□ セルフケア資料配信機能の詳細説明は、【3】-(5)-1:「セルフケア資料の配信機能」を参照 してください。

12 上手く活用すれば、必ず先生の強みになります。

□ 他との**差別化や患者様の囲い込みツールとしてお勧め**なので、以下の資料を参照ください。

□ **活用法**は、【3】-(5)-2:「セルフケア資料配信機能の活用方法」の ①~③

□ **配信設定方法**や**配信後の内容確認や編集方法**は、【3】-(5)-3:「配信機能の設定・確認・ 編集方法」の ①②



	<ul> <li>□ 先生のオリジナル資料を配信する時は、【3】-(5)-3:「セルフケア資料配信機能の活用 方法」の ③④</li> <li>□ 利用プランによっては、配信先へ一斉メールも送れますので、体験される時は、 【3】-(5)-3:「セルフケア資料配信機能の活用方法」の ⑤ もご覧になってください。</li> </ul>
13	施術済の情報を確認したり、同じ患者様への2回目の施術、経過観察の方法については、 以下のページやチャートを参照してください。 □ 施術済の情報を確認する方法 →【4】-(1)「過去の来院情報の閲覧と編集方法」 □ 経過観察について →【4】-(2)「経過観察の方法」の全項目をご覧ください。 □ 2回目以降の施術は → チャート(3)「再来用検査フローチャート」で始めます。
14	<ul> <li>〈その他機能〉イーファスのその他機能の説明もぜひご覧ください。</li> <li>□:連携アプリについて「からだセイバー」→【1】-(2)-④.</li> <li>□:カウンセリング補助機能「説明資料の紹介機能」→【2】-(5)</li> <li>□:イーファスポスター →【2】-(6)</li> <li>□:参考施術動画 →【5】</li> <li>□:システム画面の構成と機能の概要や利用プラン別利用可能な機能一覧 →【6】付録</li> </ul>

最後に、<u>患者様に施術される時は、「検査画面」や「施術画面」を必ず見せてください。</u>

見せながら受けていただく意義は大きく、新しい施術の印象を持たれ、『施術の価値』として感じら れるポイントになるので、課金しても納得していただくために大切です。 特に継続して受けていただくためには、「納得」を感じていただくことが重要になります。

## 普段の施術の流れを変えない方法で使用するとしたら、次の方法がお勧めです。

イーファスに慣れてくれば、3~4分ほどあれば、検査とお勧めの施術が行えるようになりますの で、施術を始める時に「小指チェック」を行い、最後にプラスαすることを説明をしておきます。 ↓

普段の施術時間を少し短縮(3~4分)し、施術の最後にお勧め施術をプラスしてください。 最後動きやすさを体感していただけますので、プラスしたことを納得されます。



元の施術料金にプラスいくら課金されるかにもよりますが、こうした方法でも、確実に施術単価を アップさせることができます。他では最低でも120%以上アップしておられますので、ぜひ試算して みてください。

#### 〈視覚化した施術による患者様が感じる価値〉

- 1.「課金の正当性」:従来までと違いを感じるので、課金を納得しやすい
- 2.「オリジナル性」:新たな検査によって、自身に合ったオリジナルの施術感を感じやすい
- 3.「専門性」:しっかりとこだわった施術をしている印象を感じやすい
- 4.「差別感」: 他院との違いを感じられ、紹介の材料にもなりやすい
- 5.「丁寧感」:病院のX線検査と同じで、画面を見てもらうことで、信頼感や安心感を感じやすい

以上、最後までお読みくださりありがとうございました。

検査にしても、施術にしても、初めは慣れないことばかりで迷われると思います。

また、『巷によくある〇〇だけすれば OK』という方法に比べて、難しそうとか、ややこしい、とかを 感じられるかもしれません。しかし、幾度か使っていただくうちに、なんとなく全体的に理解していた だけたら、実はそんなに難しく、ややこしいものではなく、すぐに慣れていただけます。

どうしても初めに慣れていただくことは必要ですが、イーファスの施術は理屈に則った施術なので、 応用性は高く、全身調整なので、幅広い層の患者様に使っていただけます。

先生が良い体験をしていただけること、そして治療院のイノベーションに活用していただけることを 願っております。

体験中ご不明な点がありましたら、

サポート事務局またはインストラクターまでお気軽にご連絡ください

CIM(有) イーファスサポート事務局 代表: 松村克憲 TEL:090-5885-3473 メール: support@efas.jp

